

平成30年全国優良経営体 表彰関係業務委託事業 結果報告書



一般社団法人全国農業会議所

national chamber of Agriculture

事業実施内容

I. 表彰式の開催について

①開催概要

②受賞者の経営内容紹介資料等の作成・配布

II. 受賞事例の普及について

①表彰式での審査講評及び取組概要報告

②優良経営体事例集の作成

③受賞者の取組内容の全国農業新聞への掲載

④全国農業経営者研究大会における受賞者事例発表

⑤受賞者の講師派遣・紹介

⑥全国農業会議所ホームページにおける受賞事例の普及

I . 表彰式の開催について

①開催概要

＝「農林水産大臣賞」受賞者表彰式の開催＝

「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」の開催にあわせ、以下のとおり表彰式を開催した。

<概要>

「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」の全体会で農林水産大臣賞の表彰式を執り行った。

今年度も皇太子殿下ご臨席のもと、表彰状の授与を実施。全国優良経営体表彰審査委員会の盛田清秀委員長より、評価ポイントの報告を行った。



◆日時

平成30年11月8日(木)13時30分～

◆会場

山形県山形市「山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)」

◆参加者

約2,100名(農業者、農業関係者等)

◆次第

- 1 歓迎アトラクション
- 2 開会のことば
- 3 国歌斉唱
- 4 主催者あいさつ
- 5 皇太子殿下のおことば
- 6 来賓祝辞
- 7 平成30年度全国優良経営体表彰・農林水産大臣賞表彰式
- 8 審査講評
- 9 担い手メッセージ
- 10 パネルトーク
- 11 サミット宣言
- 12 次期開催県引継式
- 13 閉会あいさつ
- 14 閉会のことば

【表彰状授与者】農林水産副大臣 高鳥 修一 氏

【審査講評者】全国優良経営体表彰審査委員会 委員長 盛田 清秀 氏

【受賞者】

●経営改善部門

服部農園有限会社(愛知県 大口町)
有限会社山波農場(新潟県 柏崎市)
有限会社安井ファーム(石川県 白山市)

●生産技術革新部門

有限会社マルセンファーム(宮城県 大崎市)
齊藤 寛氏・智実氏(山形県 尾花沢市)
株式会社RUSH FARM(福岡県 小郡市)

●6次産業化部門

株式会社やまがたさくらんぼファーム(山形県 天童市)
有限会社宝牧場(滋賀県 高島市)
有限会社船方総合農場(山口県 山口市)

●販売革新部門

株式会社黒澤ファーム(山形県 南陽市)
有限会社フジウ21(群馬県 太田市)
有限会社檜山農園(徳島県 小松島市)

●担い手づくり部門

渡辺 誠一氏(山形県 大江町)
有限会社かみなか農楽舎(福井県 若狭町)
郡上市美並地域農地集積推進チーム(岐阜県 郡上市)

①開催概要

＝「平成30年度全国優良経営体表彰式」の開催＝

「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」の開催にあわせ、以下のとおり表彰を開催した。

<概要>

「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」の開催にあわせ、「平成30年度全国優良経営体表彰式」を開催した。

当表彰式では、農林水産大臣賞を除く、農林水産省「経営局長賞」及び「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」の表彰状授与と取組概要発表を行った。



◆日時

平成30年11月8日(木)9時15分～

◆会場

山形県山形市「山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)」

◆参加者

164名(受賞者、受賞関係者等)

◆次第

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 来賓祝辞
- 4 賞状授与
 - 農林水産省経営局長賞
 - 全国担い手育成総合支援協議会会長賞
- 5 審査講評
- 6 記念撮影
- 7 取組概要発表

【表彰式授与者】

農林水産省大臣官房参事官(兼経営局) 上田 弘 氏
全国担い手育成総合支援協議会会長 二田 孝治 氏

【取組事例発表者】

- | | |
|-----------|---------------------|
| ●経営改善部門 | 有限会社東製茶(鹿児島県 日置市) |
| ●生産技術革新部門 | 株式会社森田農園(富山県 高岡市) |
| ●6次産業化部門 | 有限会社坂齊養鶏場(埼玉県 杉戸町) |
| ●販売革新部門 | 株式会社あかまつ農園(愛媛県 鬼北町) |
| ●担い手づくり部門 | 株式会社西部開発農産(岩手県 北上市) |
| | 上田 良一氏(熊本県 荒尾市) |

【受賞者】

〈経営局長賞〉

●経営改善部門

農事組合法人ファーム17(山口県 宇部市)
有限会社むらかみ牧場(熊本県 菊池市)
有限会社東製茶(鹿児島県 日置市)

●生産技術革新部門

株式会社Moimoiファーム(新潟県 新潟市)
株式会社森田農園(富山県 高岡市)
株式会社永吉ファーム(鹿児島県 徳之島町)

●6次産業化部門

有限会社坂齊養鶏場(埼玉県 杉戸町)
有限会社ワイエスアグリプラント(新潟県 新潟市)
有限会社北村製茶(長崎県 佐々町)

●販売革新部門

有限会社竹鶏ファーム(宮城県 白石市)
株式会社未来農業計画(長野県 長野市)
株式会社あかまつ農園(愛媛県 鬼北町)

●担い手づくり部門

株式会社西部開発農産(岩手県 北上市)
有限会社ジェイエイファームみやざき中央(宮崎県 宮崎市)
上田 良一氏(熊本県 荒尾市)

〈全国担い手育成総合支援協議会会長賞〉

●経営改善部門

株式会社宮古農園(青森県 三沢市)
株式会社高橋園芸(山形県 遊佐町)
有限会社田和楽(山形県 鶴岡市)
農事組合法人鏡田ファーマーミング(秋田県 鹿角市)
花実園てしろぎ(福島県 会津若松市)
株式会社ジーワン(栃木県 益子町)
株式会社エイト(鳥取県 日南町)
新谷 雅志氏(香川県 高松市)
株式会社ユーアス(福岡県 上毛町)
金子 光作氏(長崎県 島原市)
株式会社中村営農(兵庫県 神河町)
株式会社栄ライスサポート(大分県 日田市)
有限会社フラワーうさ(大分県 宇佐市)

●生産技術革新部門

株式会社みのり片子沢(岩手県 雫石町)
株式会社三本木グリーンサービス(宮城県 大崎市)
株式会社Yファーム佐野(栃木県 佐野市)
有限会社ドリームファームスズカ(三重県 鈴鹿市)
木下 重信氏(佐賀県 白石町)
合同会社黒木農園(熊本県 八代市)

●販売革新部門

伊勢崎 武二氏(東京都 八丈町)
森山 英昭氏(新潟県 魚沼市)

●担い手づくり部門

農事組合法人成田農産(山形県 長井市)
伊勢崎 武二氏(東京都 八丈町)
鈴木 芳明氏(千葉県 君津市)
高橋 美恵子氏(埼玉県 加須市)
本田 一雄氏(広島県 安芸高田市)

②受賞者の経営内容紹介資料等の作成・配布

<取組内容紹介資料、受賞者一覧表の作成>

(1)農林水産大臣賞について

全国農業担い手サミットで配布した「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」のプログラム資料に受賞者一覧及び農林水産大臣賞受賞者の経営概要を掲載した。

(2)農林水産省経営局長賞、全国担い手育成総合支援協議会会長賞

「平成30年度全国優良経営体表彰式」において、受賞者の取組概要の普及に向けて、「経営改善部門」「生産技術革新部門」「6次産業化部門」「販売革新部門」「担い手づくり部門」において「農林水産大臣賞」「農林水産省経営局長賞」「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」を受賞した経営体の取組概要をまとめた「平成30年度全国優良経営体表彰受賞者概要」を作成し、資料として配布した。

なお、同資料は、後述する「Ⅱ. 受賞事例の普及について」の⑥で作成したホームページにダウンロードデータを掲載し、電子データでの提供も行った。

【配布資料】

- 次第
- 参加者名簿
- 平成30年度全国優良経営体表彰受賞者概要
(受賞者一覧含む)



Ⅱ．受賞事例の普及について

①表彰式での審査講評及び取組概要報告

<内容>

◆審査講評

農林水産大臣賞受賞者の審査講評については、「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」の全体会で表彰状授与の後、また、農林水産省経営局長賞及び全国担い手育成総合支援協議会長賞受賞者の審査講評については、「平成30年度全国優良経営体表彰式」において、全国優良経営体表彰審査委員会委員長が評価ポイントの報告を実施した。



【審査講評(抜粋)】(全国優良経営体表彰審査委員会 盛田 清秀 委員長)

経営改善部門では、新潟県の(有)山波農場、石川県の(有)安井ファーム、愛知県の服部農園(有)が大臣賞を受賞されました。この3事例は地域の農地・農業を守りつつ高いレベルの経営実践を行い、さらに社員とともに成長するという基本理念が評価されました。

また生産技術革新部門では、宮城県の(有)マルセンファーム、山形県の齊藤寛さん・智実さん、福岡県の(株)RUSH FARMが大臣賞に選ばれました。いずれも栽培技術やICT技術の特徴を理解して導入し、主体性をもって活用している点が評価されました。

6次産業化部門では、山形県の(株)やまがたさくらんぼファーム、滋賀県の(有)宝牧場、山口県の(有)船方総合農場が大臣賞を受賞されました。観光・交流、農畜産物加工、直売など多角的展開によって付加価値化を実現し、それが効率的な農業生産部門に支えられていることが評価されました。

販売革新部門では、山形県の(株)黒澤ファーム、群馬県の(有)フジウ21、徳島県の(有)椋山農園が大臣賞を受賞されました。いずれも他の生産者と連携してリレー出荷や品目・ブランドの拡大を実現しており、生産者間連携のあり方が評価されました。

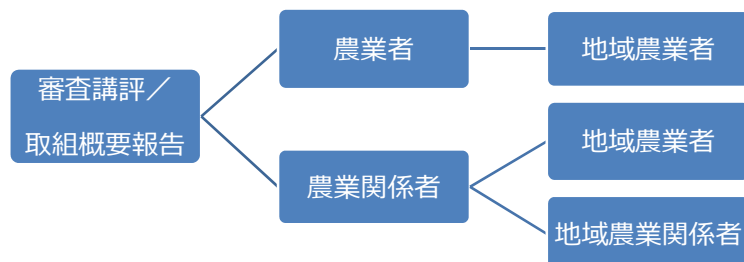
担い手づくり部門では、山形県の渡辺誠一さん、福井県の(有)かみなか農楽舎、岐阜県の郡上市美並地域農地集積推進チームが大臣賞を受賞されました。新規就農者が自立するための農地等基盤確保、効果的な研修体系、集落機能を活用した農地保全・集積が評価されました。

ここにご参集の皆様が、ご自身の経営あるいは地元の農業のさらなる発展・活性化を通して、消費者・国民の負託に応えていかれますよう、心より祈念申し上げます。

◆取組概要報告

「平成30年度全国優良経営体表彰式」において、各部門を代表して、農林水産省経営局長賞受賞者(各1名)による取組概要報告を実施した。農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に役立つ、受賞者の経営の特徴、これまでの経営改善に向けた取り組み及びその過程における課題、今後の取組方針等の報告を行った。

【審査講評・取組概要報告による波及効果(イメージ)】



②優良経営体事例集の作成

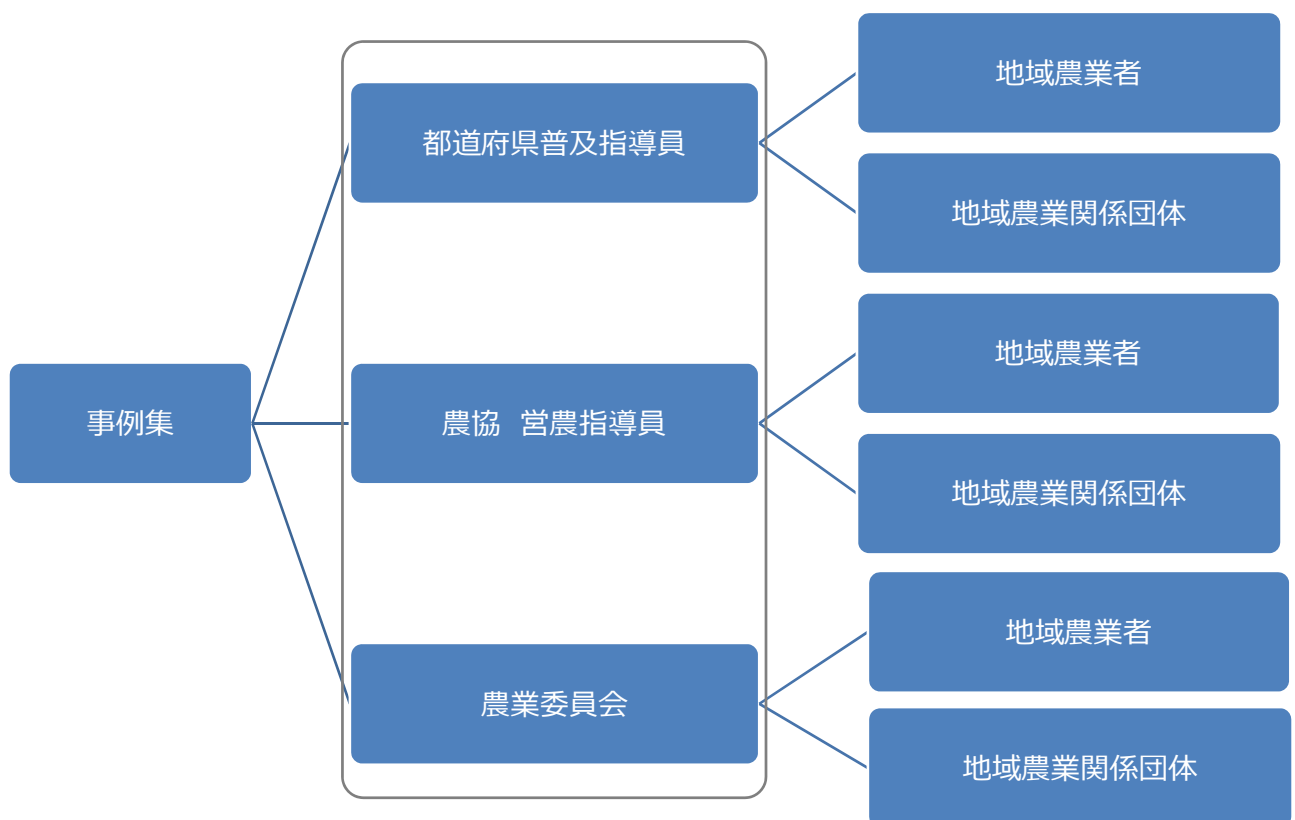
<内容>

全国優良経営体表彰において、「経営改善」「生産技術革新」「6次産業化」「販売革新」「担い手づくり」の各部門の「農林水産大臣賞」「農林水産省経営局長賞」「全国担い手育成総合支援協議会長賞」を受賞した経営体の取組内容を冊子化。

都道府県普及指導員、農協営農指導員、農業委員会など地域農業の発展に尽力する職員が所属する機関に事例集を配布し、受賞経営体の取組内容を広く普及した。



【事例集配布による波及効果(イメージ)】



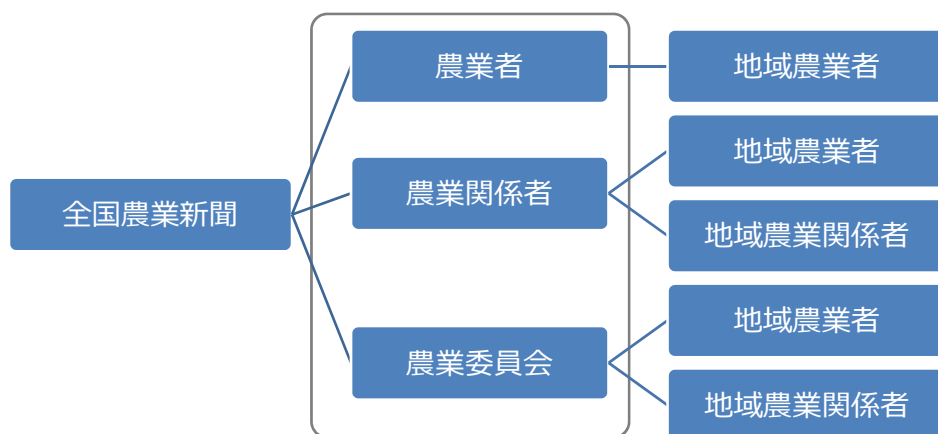
③受賞者の取組内容の全国農業新聞への掲載

<内容>

農林水産大臣賞受賞者の取組内容について、
全国農業新聞の紙面において連載企画で紹介し、
農業者や農業関係者に幅広く普及した。



【新聞への事例掲載による波及効果(イメージ)】



【全国農業新聞について】

全国農業新聞は、（一社）全国農業会議所が発行する週刊の農業専門紙である。市町村農業委員・農地利用最適化推進委員、認定農業者、農業法人、専業農家などの業者を中心に国、都道府県、市町村の議員や職員、JAの役職員などに購読されている。

読者（農業者）の経営部門も稲作、野菜を中心に多岐にわたっており、紙面を通じた受賞者の取組内容の紹介により、幅広い層に普及することができる。

2018年度
**全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞 ①**

農水省と全国担い手育成
総合支援協議会（事務局＝
全国農業会議所）はこのほ
ど、本年度の全国優良経営
体表彰の受賞者を発表し
た。農水大臣賞に輝いた15
経営体は8日に山形市で開
かれた「第21回全国農業担
い手サミット」で表彰され

**意欲と能力ある
担い手の発展へ
5部門で表彰**

た。
同表彰は、意欲と能力の
ある担い手の一層の経営発
展を図るために創設され、
2010年度から現在の名
称になった。認定農業者の
優れた取り組みを評価する
表彰事業として始まり、時
代に合わせた部門を設置し
ている。
対象となるのは①農業経
営の改善、規模拡大や所得
向上を評価する経営改善部
門②生産現場において先進
的な技術を活用した作業の
効率化や生産管理、低コス
ト化を評価する生産技術革
新部門③農業生産と一体と
なった加工・販売や地域資
源を活用した新たな産業創
出の促進を評価する6次産
業化部門④消費者ニーズを
踏まえた独自の市場開拓や
特色ある農産物で新たな価
値を評価する販売革新部門
⑤次世代の経営体育成や農
地中間管理機構などを活用
した農地の集積・集約化に
関するコーディネート活動
を評価する担い手づくり部
門――の計5部門となる。
農水大臣賞に加え、農水
経営局長賞、全国担い手育
成総合支援協議会会長賞を
含めた計55事例が受賞して
いる。
◇各部門で農水大臣賞を受
賞した経営体の取り組みを連
載で紹介する（8回）

地域の農地を守るという
理念のもと、山間地で水稻
を中心に経営を営み、長年
にわたる努力により地域か
ら多くの信頼を得た結果、
集落の約7割の農地を集約
した。

代表の山波剛さん（47）
＝写真＝は11年に就任する
と、作業を23工程に分けて
それぞれに責任者を設置す
る人材育成プログラム「作
業別責任者制度」を導入。

経営改善部門

新潟・柏崎市 (有)山波農場



作付面積106.3畝（水
稲103.3畝、ソバ2畝、
野菜1畝）

入社2年目から責任者に登
用し、作業の段取りや人員
配置、資材・機械の使用に

関する計画の立案と責任を
持たせた。

社員とは定期的な面談を
通じて作業別責任者として

の技術、知識、協調性など
を評価する。代表から見た

長所や能力を発揮すべきこ
となどを互いに納得するま

で話し合い、従業員のモチ
ベーション向上とレベルア

ップにつなげている。

昨抜きによ
る圃場の大区

画化を自社で施工し、作業
の効率化とコスト低減を実

現。水稻の生育状況をデー
タ化し、結果を基に肥培管

理を徹底することで、肥料
・農薬を5割減らしながら

10畝当たり540kgを維持
している。

冬場は除雪作業をするこ
とで、中山間地域における

年間雇用を確立。地域の環
境保全や生産基盤の下支え

にも大きく貢献している。

若手社員を責任者に抜てき

昨抜きによ
る圃場の大区

同社のある七郎町は大区画化された水田地帯で、大規模水稲経営が営まれている。空き農地がなく規模拡大が難しい地域だが、同社はいち早く秋・冬季の期間借地によるプロックリーとの複合化に取り組み、規模拡大と水田フル活用を実現している。

プロックリーは、安井善

経営改善部門

石川・白山市 ㈱安井ファーム

2018年度 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞 ②

高速インターから近く、企業進出で急速に都市化が進む地域で、町内の農地の約半分を担う農業法人。服部忠代表(45)は「100年企業」を経営目標に、水稲を中心に大麦、露地野菜、野菜苗を導入することで労働の平準化と収入期間を延長。リスク分散と経営の安定化を実現している。

経営改善部門

愛知・大口町 服部農園(有)



作付面積112畝(プロックリー59畝、水稲33畝、大豆15畝など)

水稲+プロックリーで成果

成代表(47)が経営を任された2003年から。湿田で積雪も多いなど条件が厳しいが、暗渠排水と、水稲や大豆と同時の省力・低コスト化のための機械の徹底。ITツールも活用し、

圃場、作目別の収量・品質、栽培履歴、販売実績などの情報を全社員で記録し共有している。大手自動車会社での勤務経験を持つ安井さんは「社員を幸せにしなければお客さまの満足(幸せ)は実現しない」と、秀品率や収穫率などの目標に対する達成度を客観的に評価して賞与として還元し、従業員のやる気を引き出している。



作付面積114畝(水稲72.9畝、大麦36.8畝など)

「注文栽培」でファン獲得

直販を販売方法の柱に据え、農地の地主にファンになってもらうほか、展示会に出展して飲食店や小売店などの新たな取引先を開拓。米は顧客が望む品種(10品種)や農法(無農薬・減農薬栽培)によるオーガニックで生産。経営スタイルに賛同する企業と取引することで、相場に左右されない経営だ。

マネジメント・ゲーム研修や人材育成セミナーの受講など人材育成に力を入れる。決算報告を従業員と共有。2013年から経営に加わった忠さんの妻・都史子さん(46)が就業環境を改善。精米工場を女性目線で設計したり育児スペースの整備など、女性が働きやすい環境づくりを進める。

仙台市に近く、肥沃な平野が広がる地域で栽培が難しい高糖度トマトの「デリシャストマト」を柱に施設園芸に取り組む農業法人。千葉卓也代表(45)は「とことん質を追求する」をモットーに、雇用型経営を展開し、従業員は20〜30歳代が中心で活気に満ちている。施設内には環境制御モニ

生産技術革新部門

宮城・大崎市 (有)マルセンファーム



作付面積36.1畝
(トマト1.6畝、ホウレンソウ0.4畝、
キク1.1畝、水稲33.0畝)

ターを設置し、温度、湿度、土壌水分などをリアルタイムで監視。病害虫の発生を抑え、二酸化炭素の施用で光合成を促進している。光合成から得られた糖を安定させている。

類を適切に転流させて果実を充実させることで収量が3割増えた。

非破壊法による光センサーの糖度計を導入して、より糖度が高いトマトを最上位の「極上デリシャス」として販売し、高級トマトジュースの「スカーレットアイアズ」とともに、経営

栽培技術や品種など質を追求

観賞用キクはトマト同様の環境制御、ホウレンソウは夏季中心の作型、水稲は減農薬・減化学肥料を基本にするなど、品目ごとに特徴ある栽培をしている。

JGAP認証を取り、販売のみならず従業員の生産管理体制の高度化を進める。経営理念やビジョンは研修などを通じて従業員に的確に伝え、組織体制の改革を実践している。

2018年度 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞 ③

先代が入植した土地で、スイカ約15品種を栽培。独自の技術を次々に導入することによって「省力化・効率化」と「経営規模拡大」を両立させ、名産「尾花沢すいか」の生産技術確立と品質安定に貢献してきた。

「地域の発展をなくして、自身の発展なし」をモットーに、地域、顧客、自らが

生産技術革新部門

山形・尾花沢市 齊藤寛さん・智実さん



作付面積5.1畝(スイカ4.3畝、水稲0.8畝、スイカ苗0.2畝)

省力・効率化と規模拡大両立

上向く「三方よし」の経営を心がけている。

寛さん(70)は地域農業のリーダー、智実さん(39)は地域の若手生産者として活躍する。

今では必要不可欠な技術であるトンネル栽培を県内で初めて導入。つるを土から遮断することで病害抑制するための全面マルチ栽培や追肥を効率的にするため灌水チューブを利用した液肥による追肥などの新技術を次々に取り入れてきた。

運搬車を改良した自走式育苗を自ら実施し、周辺農家に良質な苗を販売することで収益性を上げている。

同社は1992年に永利
有次社長（65）が義理の兄
とともにビニールハウス28
棟から施設園芸を始め、徐
々に規模を拡大。2012
年の法人化に際し、40棟だ
ったハウスを86棟まで増設
した。大幅な規模拡大を可
能にしたのが、独自開発し
た経営管理システムの「ア
グリエール」だ。

生産技術革新部門

福岡・小郡市（株）RUSH FARM

2018年度 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞 ④

サクランボを中心に西洋
梨、桃などを栽培する観光
果樹園。加温ハウスや晩生
品種を導入して収穫期間を
長期化。商品ロスをなくす
ためジュースやゼリー、焼
き肉のタレ、ドレッシング
などを開発し、直売店で販
売している。

6次産業化部門

山形・天童市 ㈱やまがたさくらんぼファーム

独自の経営管理システムで効率化

作付面積7.2畧
（水菜1.7畧、チ
ンゲンサイ0.3
畧、キュウリ0.
2畧、リーフレ
タス5畧）



野菜の生育状況、作業内
容、収穫量、販売状況の各
データを表示されるため、経験が浅
くクラウド
に集約さ
「タスク（作業手順）」管
理、生
産販売管
理、雇用
管理を行
うシステ
で、指示・報告などの手間

を省略できる。システムの
活用で社内の情報共有や栽
培管理の効率化、栽培計画
の精度向上、労働生産性の
向上を実現している。
販路拡大に向けて専門の
営業職を配置。6次産業に
も力を入れ、国産完熟ライ
ムで開発した「ゴールデン
ライム胡椒」は小郡市の
ふるさと納税返礼品として
人気で、大手デパートの販
売会へも出品している。



作付面積6畧
（サクランボ3.
8畧、桃0.7畧、
リンゴ0.5畧、
ブドウ0.5畧、
洋梨0.5畧）

加工とカフェの連携で高収益

ルーツソースに果実を組み
合わせたパフェ、サンデー
（アイス
クリーム
を主体と
したデザ
ート）を
提供。飲
食業の経
験を持つ
女性職員
始め、軌
道に乗る
ことを確
を確保している。
矢萩美智社長（42）は積
極的な経営展開を図るが取
り組みは慎重で、多額の設
備投資や食品衛生のリスク
を回避するため1次加工は
地元業者に委託。カフェ
は中古のプレハブで営業を
開始、軌道に乗ることを確

認してから補助事業を活用
して店舗を建設した。
高齢化が進む中、優良農
地を後世に残すよう積極的
に農地を引き受け、経営効
率を高めるため地域の若手
農業者と協力しながら面的
集積を進めている。
従業員の働きやすさを追
求し、労働時間を年単位で
調整する変形労働時間制を
導入。女性に優しい就業環
境の整備にも目配りする。

同社は肉用牛肥育・繁殖、酪農、養豚と複数畜種の生産部門を擁する。ソフトクリームやパンなどの製造・販売、焼き肉レストランと精肉販売を担うグループ会社と一体的に経営し、6次産業化を展開している。

1995年、肉用牛の繁殖経営から規模拡大を進め、酪農の開始にあわせて

6次産業化部門

滋賀・高島市 (有)宝牧場

経営規模：肉用牛(肥育)1177頭(繁殖)73頭、乳用牛292頭、養豚100頭



法人化した。グループ会社による乳製品の加工・販売も同時に開始。敷地内で生産した牛乳・肉を牛乳・肉を製品やパン、精肉などを加工・販売し、一

部は近隣の観光施設、コンビニなどで販売している。田原哲也社長(47)は自家育成した子牛を肉用肥育や酪農に用いることで経費削減。出荷できない初乳を豚に給与して「ミルク豚」としてブランド化するなど肉用牛・酪農・養豚それぞれの生産を的確に関連付けた経営を展開する。

自家育成子牛で経費を削減

飼料は地元農業者との連携により、稲WSCや飼料用米を積極的に使う。堆肥を圃場に還元するなど循環型農業に取り組む。女性の雇用を率先し、経営の核心にも登用している。さらなる規模拡大を目指す、哺乳ロボット発情発見システム、分娩(ぶんべん)監視カメラなどICT・IoT技術を導入。従業員の労働軽減につなげている。

2018年度 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞 ⑤

同社は1972年に法人化し、酪農経営を中心に地域の農家と連携しながら規模拡大してきた。「6次産業化Ⅱ(1次×3次×2次)＋「0円リゾート」を提唱し、1次、2次、3次産業別にグループ内で別会社を設立。1次産業部分を担う同社の安全・安心な顔の見える農産物づくりを土台と

6次産業化部門

山口市 (有)船方総合農場

経営規模：乳用牛154頭、肥育牛71頭、水稲40.1%、飼料作物25%



して、約30年前から6次産業化を実践する。

0円リゾートでファン獲得

同グループは1次(生産)の次にすぐに2次(加工)ではなく、「都市と農村の交流」(110円リゾート)を体験、家畜とのふれあいなど

ゾート)を実施した。商品を作る前に確実に購入してくれるファンを獲得したこと。生乳を使った加工品は、8千軒に宅配。宅配網に米などの農産品・農産物加工品も乗せて届けることで、顧客を拡大してきた。

坂本賢一社長(47)は生産量と消費量のバランスが崩れれば全ての面に問題が生じると考え、1次産業を担う同社がグループ会社と密に情報交換・連携し、生産活動を展開している。

同社は高糖度トマトを中心に、水稲、麦・大豆、コマツナ、菌床シイタケを生産している。先代の社長が先端技術を駆使してトマト栽培を始めた後、離農する農家から農地を引き受けながら、作目と規模を拡大し複合経営を実現した。

引き受けた圃場で湛水性が悪い場合は、麦・大豆やコ

販売革新部門

徳島・小松島市 (有) 極山農園

トマトブランド化し販路拡大

作付面積：84.6
畝(水稲57畝、大豆13畝、もち麦13畝、コマツナ0.8畝、トマト0.7畝、菌床シイタケ0.1畝)

トマトの残
渣(さんさ)は水稲の堆肥、シイタケの廃菌床はコマツナに用いるなど関連付けた栽培をして



高糖度トマトはいち早く「糖度センサー」がついたカメラ式選別ラインを導入。糖度別に3階級の独自規格を設け、差別化して販売する。価格帯を複数設けることで消費者や外食産業のニーズにも対応している。

極山直樹社長(40)の積極的な営業により、東南アジアなど海外や国内の大都市圏へ販路を拡大した。最上位の高糖度トマトは「珊瑚樹(さんごじゅ)」としてブランドを確立する。

農地中間管理機構を活用し、県東部4市にわたって条件を問わずに農地を引き受ける。「田んぼのかけこみ寺」として地域農業の維持・発展に貢献。規模拡大の一方でICT技術を積極的に取り入れ、経営の合理化を徹底している。

2018年度 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞 ⑦

渡辺誠一さん(52)は「日本一のスモモ農家」になることを目標に、栽培を通じた地域貢献や担い手育成による農地保全と地域活性化を実践。水稲やリンゴ、シイタケなども栽培し、通年出荷をしている。

スモモは晩生を中心に14以上の新品種系統を育成しブランド化するなど、他の

担い手づくり部門

山形・大江町 渡辺 誠一さん



就農希望者の支援組織作り育成

作付面積：10.3
畝(スモモ4.1畝、水稲4.5畝、大豆1畝、リンゴ0.2畝、シイタケ0.1畝など)

スモモ産地と差別化。雪害に強く、早期に多収が可能で作業性に優れた樹形「主幹形仕立て」を自ら開発し、管内に広く導入した。

地域農家の高齢化に伴い、農家自らが新規就農希望者を受け入れて育成する「大江町就農研修生受入協議会(OSINの会)」を2013年に設立。自身が会長を務める。12軒の農家がさまざまな作物の栽培管理研修を2年間実施し、研修生・独立就農者自らがテーマを設定する勉強会を定期的に開いている。

研修終了後の独立就農を後押しするため、町に働きかけて新規就農者が利用できる住居や共同利用機械・施設を整備した。研修生19人のうち17人が就農。大江町に就農した11人全員が県外出身者だった。周辺市町村に新規就農者の受入協議会が発足するなど、担い手育成・定着の手法としてモデルになっている。

「都市からの若者の就職定住を促進し、集落を活性化させる」(下嶋幸夫社長、57)ことを目標に、2001年に若狭町、地元農家、民間企業の共同出資で設立。就農定住研修、インターンシップ、体験学習、農業生産、直販の五つの事業を実施している。

就農定住研修事業では

担い手づくり部門

福井・若狭町 (有)かみなか農業舎

作付面積：
4.5% (水稲)
3.5% (大麦)
0.4% (ソバ)
0.4% など



町、地元集落、認定農業者の3者体制で栽培技術などの生産段階から加工、販売実習、経営管理といった多角的な研修を実施し、即戦力となる人材を育成。研修中から農地、機械、住宅、世話人の準備を進めるとともに、外部研修や地域の担い手との交流会を開き、円滑な就業定住を支援している。研修終了者と後継者のいない認定農業者が協力して法人化したり、共同生産を行うなど円滑な経営継承にも取り組んでいる。これまでに26人の研修生が同町で定住就業。機械レンタルや作業補助のほか、卒業生の生産物を買付け販売するなど、卒業後のサポートも充実している。研修終了者の耕作面積は192畝と町内の農地面積の1割超にのぼる。

即戦力な人材を育て就農へ

地域への就農定住者の教育・育成に貢献しながら、自らの地域農業の担い手としての経営発展を両立している。

2018年度 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞 ⑥

郡上市美並地域農地集積推進チーム(金子聡代表、48)は市、JA、農地中間管理機構、農業委員会の関係者で構成。地域の5地区を中心に、チームのコーディネート活動により、地区内の四つの集落営農法人への集積を展開している。

担い手づくり部門

岐阜・郡上市 郡上市美並地域農地集積推進チーム



地域の水田面積167畝のうち54畝を集積

四つの集落営農法人に集積

展。今後の農地管理が課題だが、広い法面や狭小な面積に加え湿田が多いため、集積に当たっては、畦畔管理や水田の汎用(はんよう)化も課題だ。同チームが中心となって、各地型機械の導入に対する補助事業の活用、耕作条件改善事業を活用した暗渠排水の施工、畦畔へのカバープラントの導入を実現した。地区内の集落営農法人への集積を進めるとともに、法人がない地区では隣接地区の法人の参入を実現。こうした取り組みを通じ、関係者全員の同意の下、地域を挙げて担い手の営農活動を支援する体制を確立している。

おわり

④全国農業経営者研究大会における 受賞者事例発表

<内容>

(一社)全国農業会議所が全国農業経営者協会、全国認定農業者協議会と共催した「第48回全国農業経営者研究大会」の分科会(米政策分科会)において、経営改善部門の農林水産大臣賞受賞者である「服部農園有限会社」(愛知県大口町)および「有限会社山波農園」(新潟県柏崎市)による経営内容の発表を実施した。

【開催概要】

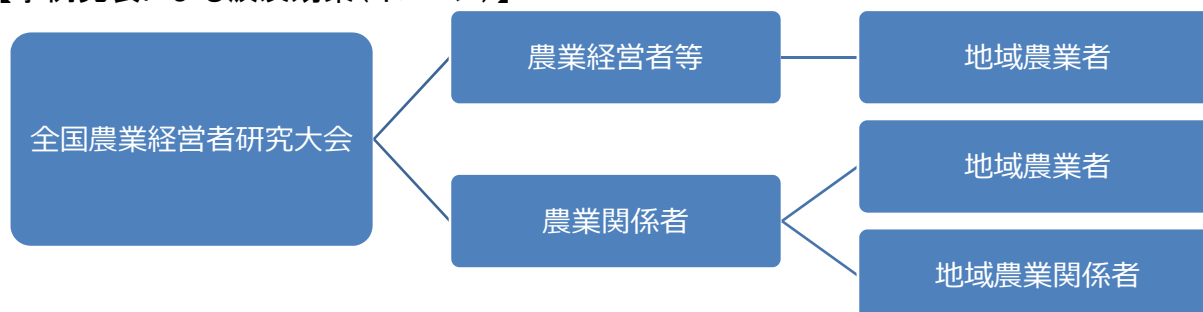
日 時:平成31年2月5日(火)9時～

場 所:AP東京八重洲通り

参加者:187名(うち米政策分科会82名)



【事例発表による波及効果(イメージ)】



⑤受賞者の講師派遣・紹介

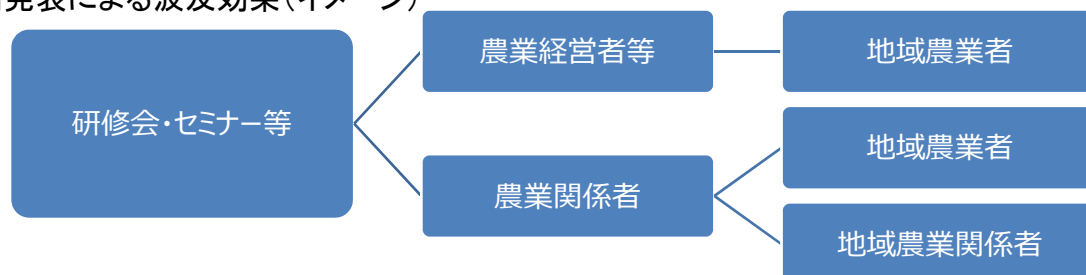
<内容>

都道府県農業会議や担い手育成総合支援協議会、認定農業者協議会、農業経営者協会など、(一社)全国農業会議所が有するネットワークを生かし、都道府県段階の各種研修会等において、平成30年度全国優良経営体表彰の受賞者を講師として派遣する取り組みを実施。また、その他の都道府県・市町村段階の関係機関・団体等が開催する各種研修会等においても受賞者を講師として紹介するなど、広く受賞事例の普及に努めた。

【講師派遣実績】

開催県	研修会等名	開催年月日	講師名	参集者	参加者数
岩手県	農業経営者セミナー	H30.12.12	(株)西部開発農産 照井勝也 氏	認定農業者及び関係機関・ 団体	110人
	経営戦略セミナー	H31.2.11		農業法人、認定農業者及び 関係機関・団体	118人
宮城県	みやぎ農業担い手サミット	H31.2.6	(有)山波農場 山波 剛 氏	認定農業者、関係機関 等	320人
	宮城県農業法人現地視察及びセミナー	H31.3.18	(有)竹鶏ファーム 志村 浩幸 氏	農業法人 等	40人
山形県	農業経営法人化実践研修①	H30.12.5	(有)田和果 奥山 康光 氏	認定農業者等	11人
	農業経営法人化実践研修②	H30.12.7	(株)やまがたさくらんぼ ファーム 矢萩 美智 氏		13人
	農業経営法人化実践研修③	H31.1.11	(株)黒澤ファーム 黒澤 信彦 氏		12人
秋田県	農業改善支援セミナー	H30.2.20	(農)鏡田ファーマー 前代表理事 木村 功 氏	県認定協組織会員、市町村 関係機関・団体担い手育成 担当、県再生協議会構成機 関・団体等	89人
新潟県	新潟県担い手経営発展推進大会	H30.12.20	(有)山波農場 山波 剛 氏 (有)ワイエスアグリプラント 藤田 一雄 氏	認定農業者 等	400名
富山県	富山県農業者新春交歓会	H31.1.24	(株)森田農園 森田 一秋 氏	認定農業者等	440人
広島県	農業委員・農地利用最適化推進委員及び 農業経営者研修会	H31.3.8	(有)山波農場 山波 剛 氏 郡上市美並地域農地集積 推進チーム 金子 聡 氏	農業委員、農地利用最適化 推進委員、農業経営者 等	250人
香川県	経営発展支援セミナー	H31.1.11	服部農園(有)	認定農業者等	96人

【事例発表による波及効果(イメージ)】



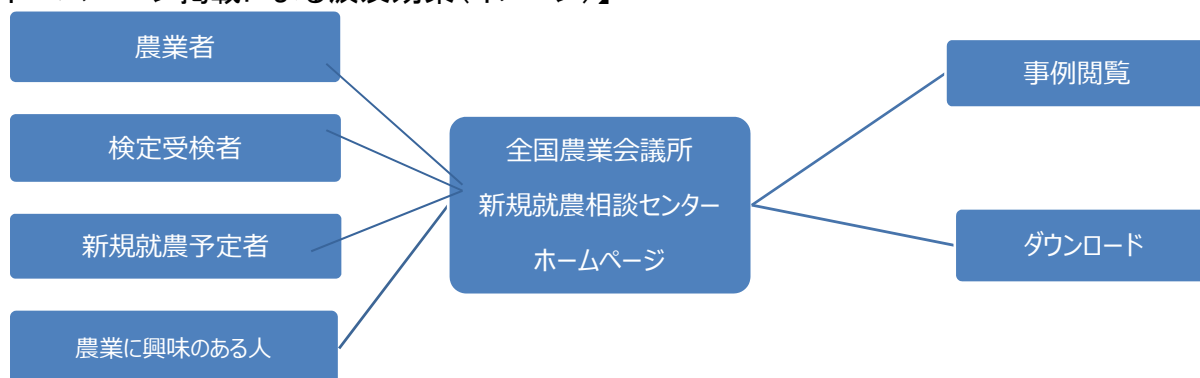
⑥全国農業会議所ホームページにおける 受賞事例の普及

<内容>

農地や担い手対策、新規就農に関心の高い方や日本農業技術検定に興味をもつ方など様々な方が閲覧する(一社)全国農業会議所のホームページにおいて、農林水産大臣賞受賞経営体の紹介記事を掲載した他、「平成30年度全国優良経営体表彰受賞者概要」及び「平成30年度優良経営体表彰事例集」のダウンロードデータを掲載するなど、受賞事例の普及を行った。

さらに、全国新規就農相談センターのホームページにも「全国優良経営体表彰」の内容を掲載することで、農の雇用事業を実施する経営体等への受賞事例の普及を積極的に行った。

【ホームページ掲載による波及効果(イメージ)】



【掲載方法】

(全国農業会議所)

(新規就農相談センター)

トップページにショートカットを作成し、受賞事例の取組内容等を掲載。優良経営体事例集でも当ページの案内を掲載。